

JRK(凌佳)グループ

事業ご紹介



2026年 Q3 | AI Transformation / Global Delivery / AI Talent

日本向けSIの実績を基盤に、AI駆動型SIとグローバルAI人材育成へ展開

JRKグループの現在地

24年の対SI基盤を、AI駆動型SIとグローバルAI人材供給へ拡張

1. 日本向けSI・開発実績

日立グループ等の大手企業向けに、長年のオフショア開発・品質保証・一括請負の実績を蓄積。

2. AI駆動型SI

N社モダナイゼーション案件で、設計・開発・テスト・QAまでAIを実案件へ適用。工数削減効果を定量化。

3. AI人材供給基盤

大学正規カリキュラム、職業訓練校、東京AIアカデミーを接続し、日本企業向けAI人材を継続供給。



日立システムズ（済南）開発センター



産学連携IT人材育成



東京本社



セキュリティソリューション

日中拠点をつなぐ事業基盤

中国側の開発・育成基盤と、日本側の顧客接点・品質責任を一体運営



済南凌佳科技有限公司

2002年設立。日本向けSI・オフショア開発、人材育成、指静脈セキュリティ機器・ソリューションを展開。

株式会社ジェーアールケー

2006年設立。日本本社として、AI駆動型SI、SES・IT人材サービス、グローバルAI人材育成を推進。



開発

品質保証

AI活用

人材育成

一体運営の価値

日本企業の品質・契約・顧客対応に、中国側の開発・教育・AI実装体制を接続し、継続的な供給力を確保。

济南凌佳科技有限公司 | 中国本社

2002年設立。日本向けSIを支える開発・技術・人材育成拠点



事業内容

- ・ソフトウェア開発・SI
- ・グローバルAI人材育成・紹介
- ・指静脈認証機器・ソリューション

成長の軸

日立グループ等、日本の大手企業向け開発で培った品質・運用ノウハウを、AI時代の人材・SIへ拡張。

2002

济南設立

2008

共同開発センター

2025

AI人材育成拠点

メッセージ

中国側は単なる開発拠点ではなく、AI実装・人材育成・日本向け品質保証を担う供給基盤です。

株式会社ジェーアールケー | 日本本社

2006年設立。日本顧客に向き合うAI駆動型SI・人材供給の中核



日本本社の役割

顧客対応、品質責任、契約管理、現場理解を担い、中国側の実行力・教育力と接続します。

AI駆動型SI

モダナイゼーション、PMO、QA・テスト、開発プロセスの高度化を支援。

人材・SES

SES・IT人材サービス、グローバルAI人材育成・紹介を展開。

由来と継続性

創業時の Japan Ryouka System からJRKへ。対日IT事業の現場基盤を継承し、新しいAI時代の事業へ展開。



会社沿革 | 実績を重ねた日中連携モデル

開発センター、人材育成、指静脈、AI人材供給へ段階的に拡大



2008 開発センター



2008 戦略提携



2010 センター開所



2025 訓練校



東京本社

2002

2006

2008

2009

2018

2025

济南凌佳科技有限公司を設立。日立向けソフトウェア開発を開始。

日本本社を設立。日本顧客との営業窓口・品質責任体制を整備。

日立システムズ（济南）開発センターを設立。指静脈技術でも日立製作所とMOU締結。

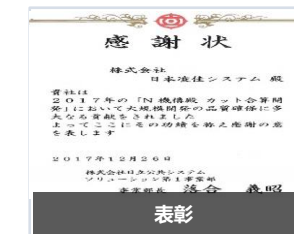
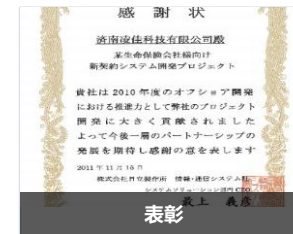
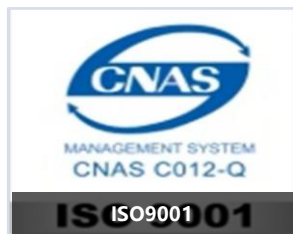
济南市凌佳ブリッジSE養成学校を設立。“日立システムズ実践SE”冠講座を開設。

寧波銳智匯峰智能科技有限公司を設立。指静脈認証スマート機器・システムインテグレーションへ展開。

济南凌佳職業技能訓練校・東京AIアカデミーを軸に、日本向けAI人材の発掘・確保・育成・供給へ拡大。

資格取得・表彰 | 品質と技術の裏付け

開発成熟度・セキュリティ・アウトソーシング領域で評価を獲得



品質・成熟度

ISO9001、ISO27001、CMMI4/5など、長期運営に必要な管理基盤を整備。

技術・事業評価

中国国際投資促進会等によるアウトソーシング技術・成長型企业表彰。

AI・ハード事業基盤

指静脈認証・スマート機器・セキュリティ分野の受賞・認定を蓄積。

実績の意味

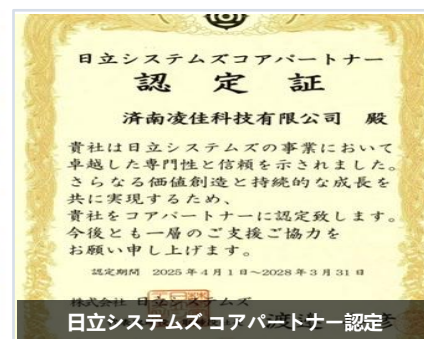
単なる技術紹介ではなく、日本企業向けに求められる品質・管理・継続運営の基盤を持つことを示しています。

日本における主要パートナー

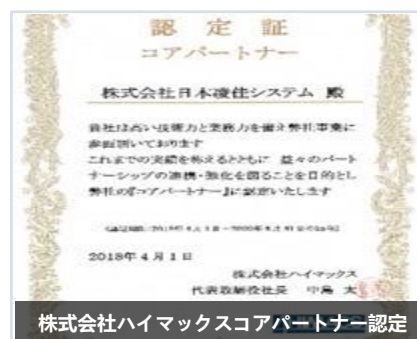
長期の取引・提携・認定を通じ、日本企業向けビジネスを展開



日立製作所パートナー認定



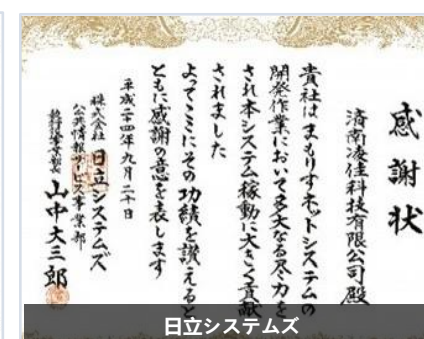
日立システムズコアパートナー認定



株式会社ハイマックスコアパートナー認定



日立製作所



日立システムズ

日立システムズ

開発センター、人材育成講座、コアパートナー認定など、長期的な協業実績を蓄積。

日立製作所・関連会社

公共システム・指静脈技術・セキュリティ領域などで連携実績。

その他日本企業

東証スタンダード市場企業、Sler、ソフトウェア企業等との協業基盤。

長期協業の価値

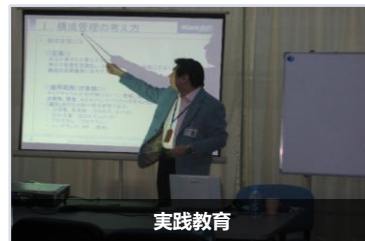
日本企業の期待水準を理解し、品質・納期・現場対応を前提に事業を設計できること。

産学連携IT人材育成実績 | 2009-2011

日立システムズ冠講座を3期実施し、現地開発センター向け中堅人材を育成



日経産業新聞報道 (2009年4月2日)



概要

済南市凌佳ブリッジSE養成学校で「実践SE講座」16科目を3期実施。

16科目

実践SE講座

3期

継続実施

約100名

中堅人材育成

カリキュラム構成

日本語基礎・生活日本語・ビジネス日本語・IT日本語・プロジェクト管理基礎・実践訓練・E-learning・日立実践SE講座。

ソフトウェア開発 + 指静脈認証ハードウェア事業

共同開発センターから中国市場展開・製品化まで推進



2008年

日立情報（済南）開発センターを設立。
大規模オフショア開発を開始。

指静脈認証

日立製作所と中国展開で戦略提携。金融・
司法・データセンター等へ展開。

製品化・受賞

指静脈勤怠、スマート機器、セキュリティ
ソリューションで受賞・導入実績。

この実績を、現在のAI駆動型SI・AI人材育成へ接続しています。



PART 2: AI駆動型SI・モダナイゼーション

日本トップレベルのグローバル企業で実証したAI活用実績と定量効果を、次の協業領域へ横展開

N社様 AI駆動モダナイゼーション実績

設計書生成・コード生成・テスト自動化・QAまで一気通貫で実案件適用

対象システム

N社様 基幹販売管理システム (SMS)

現行JavaApplet 122業務モジュール / 247万行

SAP

標準業務プロセス
21モジュール

Intra Mart

ローコード画面
47コンテンツ

Java Spring+React

個別再構築
20モジュール

88単位

対応済み

1 現行Java解析

→ 2 設計書生成

→ 3 移行先設計

→ 4 コード+テスト

→ 5 E2E自動実行

→ 6 QA・改修

ポイント

古いシステムを単純移行するのではなく、業務特性に応じて標準化・ローコード化・個別再構築へ振り分け、将来保守も含めて最適化。

AI活用による定量効果

計画ではなく、実案件で得られた効果を数値で提示

80人月

実際の開発工数

320～350人月

従来方式の試算

約76%削減

開発工数削減効果

約87%削減

プログラム量削減効果

2.47Mstep → 0.32Mstep

既存プログラム量を大幅に削減し、将来の保守対象を簡素化。

設計網羅率 98%以上

AI生成資料を人が二段階で確認し、主要処理を設計へ反映。

無修正採用率 95%以上

個別開発部分の主要生成物を二段階確認後に高率採用。

証跡管理

テスト結果・修正履歴・確認記録をGitHubに関連付けて保存。

AIを「使ってみた」段階ではなく、開発工程・品質管理・人材育成まで実案件で運用済み。

N社実績から蓄積したAI活用ノウハウ

モダナイゼーションだけでなく、PMO・QA・テスト・運用改善へ横展開可能

PMO効率化

進捗・課題・成果物を一元管理し、報告資料を自動生成。

テスト効率化

設計書からテスト計画・データ・スクリプトを自動生成。

品質担保

AI生成物を人が二段階で確認し、デグレを自動回帰テストで検出。

知見再利用

プロジェクト特化AIツールとナレッジを次案件へ再利用。

診断

PoC

本番導入

運用改善

横展開

次の提案領域

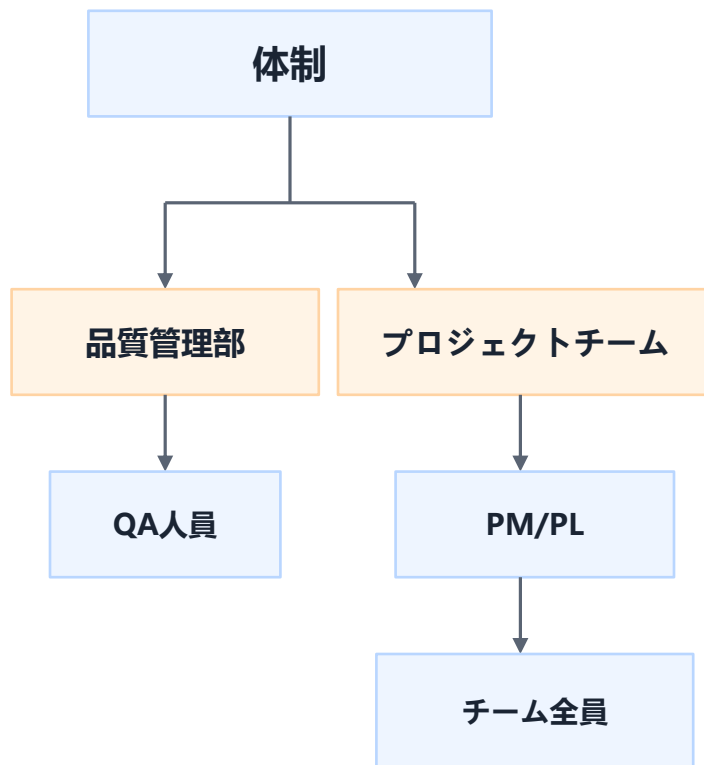
既存資産解析、AIモダナイゼーション、AI PMO、AI QA、テスト自動化、人材投入・育成を組み合わせた共同提案へ。

PART 3: 日本向け一括請負開発

品質保証と多様な技術領域に対応する開発基盤

開発体制及び品質保証

品質管理部門とプロジェクトチームのダブルチェック体制



品質管理部門の役割

- ・ 品質保証手順の登録と更新
- ・ 規則の発行と改版
- ・ 品質検査
- ・ 品質統計データの収集・分析

プロジェクトチームの役割

- ・ 品質保証計画の作成・実施
- ・ 計画・規則の遵守
- ・ 内部検査の実施
- ・ ドキュメント・品質記録の管理

AI時代への拡張

従来の品質保証に加え、AI生成物の二段階確認、回帰テスト自動化、証跡管理を組み込みます。

開発実績 | 幅広い技術領域への対応

基幹系・公共・流通・保険・製造など、多様な業務領域で開発実績を蓄積

技術	主な業務領域	対応範囲
COBOL	公共・保険・年金関連	基本設計～結合テスト・保守
VB / VBA / .NET	人事・公共・流通システム	基本設計～総合テスト
Java / JSP / ASP	デジタル放送・認証・公共	基本設計～結合テスト
PHP / Perl / JS	バイオ・学会・イントラネット	基本設計～結合テスト
C / C++ / Pro*C	通信・Web・店舗・生産管理	詳細設計～結合テスト
Shell / PL/SQL	ノーツ・製造・NW保守・保険	基本設計～運用

開発基盤の意味

従来SIの開発実績があるからこそ、AI適用時にも既存資産・品質・保守性を理解したうえで実装できます。

PART 4: 指静脈認証セキュリティ事業

設計・製造・ソリューションまでのワンストップ展開

指静脈認証セキュリティ機器

ハードウェア設計・製造から業務システム開発・運用保守まで対応



RK-FAA11シリーズ



認証端末



オフィス利用



自動販売機

金融・データセンター

中国建設銀行本社、上海銀行本社、中国銀聯、中国工商銀行本社など。

司法・公共

全国30以上の刑務所、政府機関、図書館、スマート人口管理など。

オフィス・福利厚生

日立華勝、NECソフト(済南)、富士ソフト(中国)等に導入。

小型金庫

ホテル、病院、老人ホーム、シェアハウス等の用途へ。

導入実績 | セキュリティソリューション

金融・公共・司法・建設現場・スマートシティまで幅広く導入



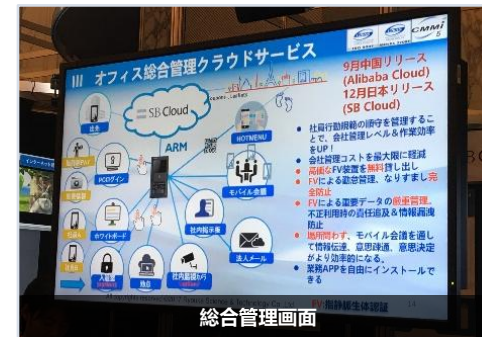
データセンター



インテリジェントオフィス



危険現場管理



総合管理画面

金融

中国建設銀行本店データセンター、上海銀行本店データセンター、中国銀行湖北支店など。

司法

全国30以上の刑務所で通路管理・本人認証に利用。

スマートシティ

山東省新泰市の人口管理プラットフォームなど。

建設現場

済南済齊黄河大橋など危険現場管理で共同特許実績。

PART 5: 産学連携によるAI人材育成事業

計画ではなく、正規カリキュラム・職業訓練校・実案件を接続する人材供給基盤

日本向けAI人材保障体系

発掘・基礎教育・高度教育・就職 / 留学までを一貫して運営

AI人材発掘・確保

大学正規カリキュラム、特別講座、SNSスカウトにより候補者を早期発掘。

済南校 | 基礎教育

6ヶ月～1年。日本語・IT/AI基礎・企業素養・PBL実践で選抜層を育成。

東京校 | 高度教育

短期研修＋長期育成。高度日本語、最新DX/クラウド/AI、PBL型実践。

日本企業就職・留学

JRK・大手企業・専門学校・大学等への接続と長期キャリア支援。

人材供給のポイント：大学で発掘し、学校で育成し、実案件・日本就職へ接続するため、採用前から適性と実力を確認できます。

AI人材を発掘・確保する実績

大学接点・正規カリキュラム・オンラインスカウトを組み合わせ、候補者母集団を形成

1単位・16コマ

山東交通学院の正規カリキュラムを担当

約2.5万人

山東交通学院の在学生規模

約30万人

複数大学との特別講座による接点規模

3経路

大学・SNS・選考育成を接続

① 産学連携による発掘

山東交通学院の正規カリキュラム「AI時代のイノベーションと起業」を直接担当。学生と接点を持ち、優秀なAI人材候補を早期に発掘。

② オンライン・スカウト

SNS等を活用し、大学生・若手社会人を中心に、AI分野に適性・意欲のある人材を幅広く募集・発掘。

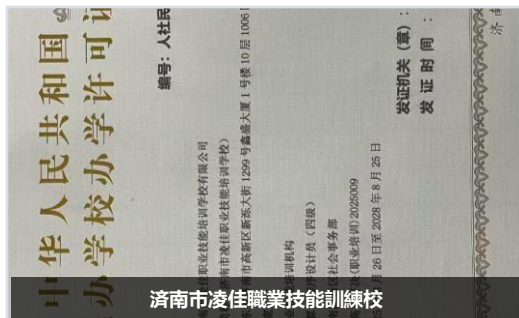
③ 選考・育成への接続

適性評価・選考を行い、合格者を育成・実践ステップへ選抜。発掘から採用・実案件まで一貫して接続。

実績ベースの説得力：AI人材供給は構想ではなく、大学の正規授業・特別講座・選考運営から始まっています。

AI人材育成の実行モデル

済南校・東京校・実案件をつなぎ、日本企業で働ける人材へ育成



済南校の役割

6ヶ月～1年の基礎教育で、日本語・IT/AI・企業素養・PBLを実施。

東京校の役割

日本現場に近い環境で、高度日本語・ビジネス対応・実務適性を強化。



東京AIアカデミー



採用側メリット

候補者の学習姿勢・適性・PBL成果を事前に把握したうえで、日本企業向け人材として投入できます。

JRKが提供できる価値

AI時代のSIと人材供給を、実績・品質・育成基盤で支える

実績で語れるAI活用

N社モダナイゼーションで、AIによる設計・開発・テスト・QAを実案件へ適用し、工数削減効果を定量化。

日本企業向け品質基盤

日立グループとの長期協業、開発センター、品質保証体制、各種認定・表彰を蓄積。

AI人材供給の実行基盤

大学正規カリキュラム、職業訓練校、東京AIアカデミー、実案件を接続し、継続的に人材を育成。

次の協業テーマ

AIモダナイゼーション

AI PMO

AI QA

テスト自動化

AI人材供給

ご清聴ありがとうございました

THANK YOU FOR LISTENING

JRK / RYOUKA Group